

関西北陸ブロック みんなの共済2025

概要

日程：2025年10月12日(日)11:00~17:00

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス BIGPAPA

参加者

富山大(6)、富県大(6)、福井大(6)、京都大(2)、同志社(12)、立命館(32)、龍谷大(23)、京都橘(4)、奈良女(10)、奈良教(6)、滋賀大(1)、滋県大(12)、近畿大(15)、大経大(9)、阪電通(4)、大阪大(12)、和歌山(9)、樟蔭女(3)、関学大(19)、甲南大(4)、神外大(1)、兵県大(9)、共済連(見学)(4) 計22会員205名



「たすける」や「たすけられる」だけではなく「たすけあう」という持ちつ持たれつという関係に着目したのは素敵だという発見をした人がいた。（富県大・2年生）

01 アイスブレイク

身近な「たすけあい」を実感しよう

本セミナーでは、生協職員、学生問わず初対面の人とグループを組み一日活動するため、アイスブレイクを通じて緊張を解し、これからの班活動の活性化につなげました。

今回のアイスブレイクでは身近な「たすけあい」を実感するために、各々がたすけた、たすけられた経験を思い出して話してもらうことで、共済の根幹である「たすけあい」をジブンゴトとして考えもらうきっかけとしました。

02 企画① 共済や「たすけあい」に込められた想いについて知る時間

共済の良さを自分の言葉で説明しよう

企画①では、共済に込められた「たすけあい」に込められた想いについて知り、共済の良さを自分の言葉で説明することが出来ました。

共済の成り立ちからこころの早期対応保障、新社会人コースといった時代によって変わりゆく共済の姿を学ぶことが出来ました。提起中にはクイズを挟んだり、適宜メモを取ることでジブンゴトとして共済を捉えながら学べました。



共済加入者は助けられる側だけでなく、助ける側にもなるということが印象に残りました。助け合いの輪をぜひ広げていきたいです。（甲南大・2回生）

03 企画② 充実した共済活動を行うための時間

4本柱を意識した共済活動ができるようになろう

企画②では、4本柱を意識した共済活動ができるようになるために給付、加入、報告、予防それぞれの重要性について学びました。また、4本どれが欠けてもいいということをも学ぶために、最強柱決定戦と題して、一人一つなりきる柱を決め、班内でアピールするグループワークを行いました。相手の意思を尊重しつつ、自分が担当する柱のアピールをしっかりする中で4本柱が全て揃う重要性が分かりました。



4本の柱を今日ちゃんと把握できました。これから企画は軸を持ってみたいですね。（大阪大・2回生）

04 企画②&昼休憩 共済活動を実際に 体験しよう

具体的な活動のイメージを湧かせよう

昼休憩の時間を利用して、体組成計、ペジチェック、握力測定、血圧計、飲酒体験ゴーグルの5つを参加者の方々に体験してもらいました。

実際に体験してもらう中で、ジブンゴトとして各会員生協でどのように活動していくべきかを落とし込むことができました。



体験して終わりになっている部分があったので、どのような想いなのか理解できました。（奈良女・2回生）

05 企画③ 今を知り、未来へつなげる の時間

各生協の今後について考えよう

企画③では、各会員生協に分かれて「みんなの共済2025」が終わった後の動き方について話し合いました。

それぞれの現状に沿った問題点を解決するために活発な議論が行われていました。その後は、アクションプランシートを書き、実際の行動提案について全員で意識統一ができました。



1年生は共済についての理解が充分でないので、しっかり持ち帰りをしたい（富山大・2年生）

06 たすけあい奨学金制度 の募金活動

全国の仲間達が安心して学業継続するため

昼休憩の時間で「たすけあい奨学制度」の募金活動を実施しました。募金を頂いた金額に応じてタヌローやヘルムのぬいぐるみをプレゼントさせていただきました。多くの方からのたすけあいの想いで、72,612円の寄付をしていただきました。寄付金は全額、全国大学生協連奨学財団に寄付させていただきます。扶養者を亡くされた学生の方々が、一日でも多く学業継続できることを祈っております。



みんなで1人の学生の学業継続を応援しようと、12万円を目標に、たくさんの方に募金をしていただきました。



共済についてかなり理解できた。自分が理解したこと他の組合員に伝えていくきたい。（龍谷大・1回生）

07 「みんなの共済2025」 全体を通して

共済の基礎から行動まで

「みんなの共済2025」全体を通して、参加者の方々が積極的に学ぼうとしている姿勢が印象的でした。本セミナーは、一日で共済の基礎から今後の行動提案まで網羅する、非常に学ぶ内容が多い濃い内容でしたが、最後まで吸収しようと取り組む姿勢が多く見られました。

今後も関西北陸ブロックでたすけあいの輪を広げ、学生が安心して学業を続けていくために、学生事務局一丸となって共済理解、共済活動の支援をして参ります。

+A 実行委員会

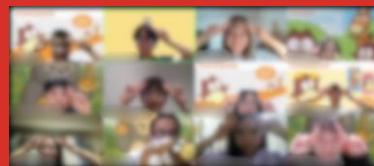
実行委員会の活動

今回の「みんなの共済2025」は、会員生協の学生委員会から立候補してくださった計7名の実行委員とともに作り上げました。皆様5月の企画立案から振り返りまで責任を持ってやり遂げていただいたおかげで素晴らしいセミナーが開催できました。

それぞれ学業などで忙しい中でしたが、定例会議や対面での会議を通して、共済の魅力を伝えようと尽力してくれました。



実行委員会の提起や雰囲気作りで参加者もしっかりと聞けたと思います（立命館・4回生）



対面会議に行けなかったが、仲良く活動できて良かった。（奈教大・3回生）

当日提起

実行委員会の皆様には、当日提起も担当してもらいました。スライド作成の段階から、どうやったら共済の魅力が参加者に伝わるかを考えもらいました。

当日は、参加者の方に丁寧に共済の魅力を伝え、実りある時間をともに作ることができました。提起中は参加者が飽きないためにクイズやクスっと笑えるポイントも作っていただき、楽しみながら学ぶことができました。

GL グループリーダー

当日の学びをサポートしていただきました

「みんなの共済2025」では、28名の方にグループリーダーとして参加していただきました。参加前にはGL集中の時間も取っていただき、班員の学びをサポートしていただきました。皆様のおかげでグループワークが円滑に進み、参加者一人一人にとって無駄な時間のないセミナーになりました。改めてお礼申し上げます。



初めてGLとして参加するのが不安でしたが、グループワークを通して楽しみながら共済について学習してもらえたみたいでよかったです。（和歌山・2回生）